

人材育成基金

輝く！郷土の星

芸術・学術の分野から4名

名誉市民後藤清一氏から寄付のあった1億円を基金として運用し、芸術・学術・スポーツなど各分野で活躍、今後も活躍が期待できる若者を対象に人材育成基金が交付されています。今年は2月22日(水)に人材育成基金交付式が行われ、4名に助成金が交付されました。



丸岡さん

村上さん

小川さん

吉本さん

**吉本直子** (よしもとなおこ)  
現代美術作家  
(西横田町出身)

大学卒業後、染色(テキスタイルアート)を勉強され、現在は京都市を拠点に繊維素材を用いた現代美術の創作に励んでおられ、国内だけでなく海外でも活動を展開されています。最近の作品としては、白いシャツを箱状に形成した立体的な作品を京都府美術工芸新鋭選抜展に出展され、見事、最優秀賞に選ばれています。



吉本さんの作品「白の箱」

**小川和也** (おがわかずや)  
(山下町出身)

理化学研究所発生・再生科学総合研究センター研究員

ヒトを含む動物の体を構成している全ての細胞において分化する能力を持つ、いわゆる「種」となる細胞である「ES細胞」について研究されています。条件次第では全ての種類の細胞に分化する能力を備えているこの細胞を、病気の治療等ヒトへの応用を

めざして、今後は、カナダのトロント大学へ博士研究員として留学・研究されることが決まっています。

**村上雅人** (むらかみまさひと)  
(別所町出身)

東京大学医科学研究所  
学術研究支援員

東海大学医学部、東京大学大学院医学系研究科を卒業後、研究所にて難病性疾患のひとつである慢性関節リウマチの血管内皮新生因子受容体との関係を研究されています。今後は、国際学会など世界の舞台で活躍し、リウマチで苦しむ世界の人々をひとりでも助けたいと考えられています。

**丸岡健史** (まるおかたけふみ)  
(三口町)

川崎医療福祉大学大学院  
医療福祉学研究科修士課程

看護専門学校卒業後、看護師として病院勤務をされながら医療経営学を学ぶために通信教育により大学商学部を卒業されました。現在も、病院で非常勤の実務をされながら大学院において病院原価計算など病院経営について研究されています。

第7回「愛の詩」入賞者決定

「子どもを想い、親を想い、そして故郷を想う」「愛」のメッセージ「第7回 愛の詩」に、日本国内はもとより海外のオーストラリアを含め1,595点の作品が寄せられました。その中から第一次審査、二次審査を経て、審査委員長である絵本作家永田萌氏による最終選考の結果、各賞が次のとおり決定しました。

3月26日(日)

午後1時より  
アステシアかさ  
さい地域交流  
センターにて  
表彰式が行わ  
れます。



第7回「愛の詩」入賞者

- ◆愛の詩賞▽フジノハルミ (西脇市)「背中」◆優秀賞▽関口純子 (横浜市)「受け継がれるもの」▽柳原枝里佳 (大阪市)「私の中に:」▽さとい (オーストラリア)「背中越しの愛」◆根日女賞▽丸山紗代 (神戸市)「老萬円の重み」◆国際ソロプチミスト加西賞▽竹内 彩 (加西市)「わたしのおじいちゃんはずいぞい」